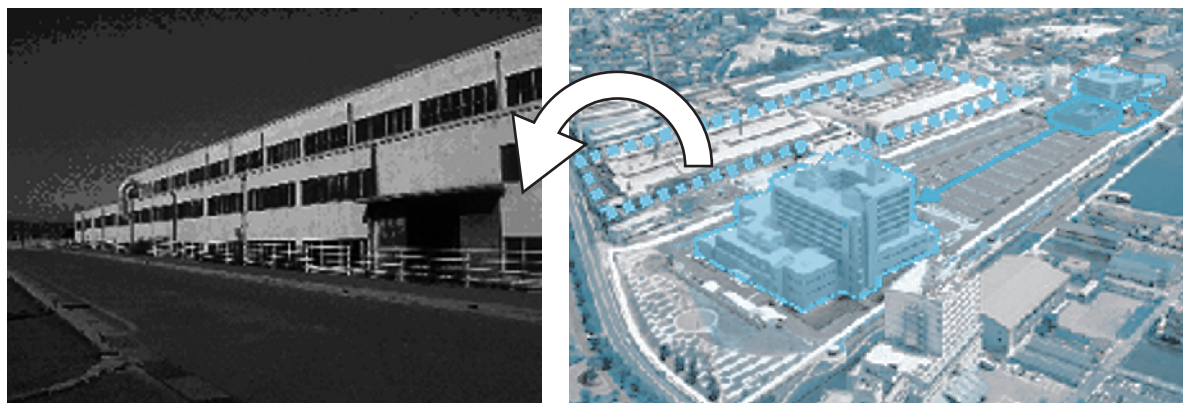


力料金の引き下げと、原料価格の高騰が原因である。運転資金はかさむのに、供給する電気代は引き下げねばならなかった。天然ガスの一部切り替えによって、多少燃料費の削減効果が期待されるが、即時経営を好転させるようなことにはならないと考えている。数年かけて、経営を改善していきたい。

日赤の土地に隣接して工場の跡地（空き地）があり、この用途が来年の3月に決定する予定。この土地の再開発事業の内容次第では、熱と電気の供給先になる可能性がある。



敷地に接して工場の跡地があり、今後の開発内容が注目されている

## 2. 飯田市水道環境部環境課

### （1）新エネルギー、省エネルギーへの取り組みに至る経緯

飯田市の新エネルギー・省エネルギーに対する取り組みは、ちょうど10年前まで遡る。

「飯田市新エネルギービジョン」を1995年度に策定し、翌1996年度、「第4次飯田市基本構想・基本計画」の策定時に市民会議からの提案により、目指す都市像として『環境文化都市』が掲げられた。当時は『環境』という言葉が今日ほど定着しておらず、『文化』と併記される事に違和感もあったということだが、同年度には環境基本計画「21いいだ環境プラン」を策定、都市像の実現に向けての行動指針を示した。

2002年度には、環境プランの改定及び新エネルギービジョンの見直しを開始し、また、2003年度には「飯田市地域省エネルギービジョン」を、2004年度には「飯田市新エネルギー省エネルギー地域計画（行動計画）」を策定した。

各計画策定後には、日進月歩の新エネルギー・省エネルギー技術革新にあわせ、設置補助等の市単独事業や「環境と経済の好循環のまちモデル事業（平成のまほろばまちづくり事業）」を展開し、目指す都市像に向けて確実に歩みを進めており、現在は環境への取り組み先進地として、全国各地からの調査を受け入れている。

### （2）新エネルギー普及に向けた具体的な取り組み

平成9年から太陽光発電普及に係る利子補給制度を実施してきたが、現在では3万円/kW、上限10万円の補助金制度に改めている。一般家庭への太陽光発電の導入は2.05%となっているが、まだまだ目標値に向けては大きな開きがある状況。